



第2号 新米町長の奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～ 【就任1月か月まだまだ未熟です・・百黙一言できず】

10月5日に就任して、早一か月が過ぎました。就任以来、休みなく業務をこなし、11月8日に一日だけ久々に休みをいただきました。町民の皆様は、町長はどんな仕事をしているのだろうか？と思うことがあると思いますので、なるべく日々の仕事の内容を、このコーナーでお伝えしていきたいと思います。

先日、福島中学校と福島商業高校の生徒さんが職場体験で町長室にいらしたに訪れました。せっかくの機会でしたので、町長室の椅子の感触や決裁をする仕事を体験していただきました。この子供たちの中から将来の町長が生まれることを期待しています。

さて、今役場では、喫緊の課題となっております。総合計画の修正作業を行っております。前町長時代に議論して積み上げてきたものに、私が選

挙公約で掲げた町民への五つの約束を政策(事業)に盛り込む作業を、連日、特別職及び管理職で夜遅くまで行っております。

大変ハードでタイトなスケジュールの中で職員が情報を共有しながら全体が一丸となって取り組んでおります。

まだまだ、峠の頂上は見えませんが、着実に一歩一歩ですが、歩み始めましたので、時間とともに下りが訪れるはずですが、まとまりましたら、町民の皆様説明に伺わせていただきます。ただ、少し残念なことは、前任者等がまとめ上げたものが、私の考えと少しズレがあることです。私は、人口が減少していく中で、将来の子供達に負担をいかに少なくするかというところが、大切な視点と考えております。高度成長期の時代と違い、箱物で経済を循環させるようなことではなく、地元の生産

力を高める産業振興に予算と人を投入して、町内経済を循環させる方向にしなければ、体力を消耗するだけで、これから生まれくる子供たちに大きなツケを背負わせることになっていきます。これから、どんな町を支える分母が小さくなることは明白です。「求める」時代から「がまん」を選択する時代へと大きく舵を切らなければ、町の財政は耐えられないのが現実です。

限られた財源の中で、将来の夢を白いキャンパスにどう描けるかが問われております。

皆さんの衆知を集集して、今の時代から未来へ「ふくしま」を繋いでいきたいと念じております。

先般、千軒地区の殿様街道や南北海道駅伝がありました。伝統は時代とともに変化しながら、引き継がれていきます。

新たな伝統を作りなが

ら、古い伝統を守ること
も私たち、今に生きる者の使命です。「国民の教育の父」として慕われている森信三先生は、「人生二度なし」と言われております。

たった一度だけの人生だから、夢(志)を持って生きなさいと、志を立てない人は、いかに才能がある人間でも、結局は酔生夢死(何も価値のあることをせず、ただ生きていること)の輩(やから)にすぎないということとです。

一月を振り返り反省、「百黙一言」発言するときは、きちんと発言し、他人が発言するときは黙って聞く、この当たり前前の方ができない。反省です。

モモやスモモは口を利かないがその美しい花や美味しい果実に魅せられて人が集まる。私も、そんな姿の公人になりたいものです。